

成果指標				
成果指標	寄附金額			
指標設定の考え方	目的を財政基盤の強化としていることもあり、寄附金額を指標とする。			
区分年度	25年度	26年度	27年度	
目標	1000	1500	1500	0
実績	1122	1140	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	3	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	3	B
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	納税していただいた方へのお礼の品を豪華にする必要はないが、特産品は伊予市の資産であり、それをPRする機会でもあるため、周知や選択方法について検討する必要がある。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	3	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	3	C
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	一般的に、ふるさと納税のコストパフォーマンスが強調されるあまり「地域を応援する」という趣旨が十分に浸透していないと懸念される。「伊豫国あじの郷づくり」事業との連携で伊予市の魅力度を向上させることが、納税件数や額の上昇の前提にあると考える。ブランド力の向上や地域振興策と連携したふるさと納税の推進策を練っていく。ふるさと納税を扱うウェブサイトでの情報提供やカード決済の導入など、寄附をしやすい環境づくりにも努める。職員の作業負担を軽減するとともに効率的に進められるように、業者との連携を検討に加える。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	以下の点について外部評価が必要と判断し、行政評価委員会に諮る。
意見、課題	県内の自治体がこの制度を活用した財源確保で実績を上げている中、対応が遅れている本市においては、早急に制度設計を行い事業を推進して行く必要がある。

行政評価委員会の答申

<p>外部評価 (行政評価委員会)</p>	<p>・ふるさと納税事業は非常に重要だと思う。自主財産を得る一つの方法であるが、ちゃちに感じる。もっとダイナミックにできないのか。職員の作業負担を軽減するとあるが、もっと職員自体に考えてもらわないと、感動しない。・他課との連携の必要性を課題認識に書くと良いと思う。頑張りますというのは分かるのだが、具体的に何をやっていくのか書いてないので、あった方が良い。今は華がない。いっぱい並ぶリストの中から目を引く工夫も必要かと思う。・地域を応援することが本質なので、過度にプレゼントに走るのはいかがなものかと思う。一方で、大事な財源なので、必要最小限のコストでやってもらいながら、寄附の目標を掲げ、もう少し知恵を絞っていただきたい。・ウェブサイトにも力を入れるより、地元出身の卒業者リストなどから、伊予市を応援する人に働きかける方が良い。・業者との連携によるPRという面より、内容の検討に力を入れる方が良いのかなと思う。・お礼に地域の写真を絵葉書にするとか、そういうアイデアは、他課と日常的に連携を図っておく必要がある。・ジビエ開発を売りにしても良い。あと唐川のピワとか下灘港のハモとか、単品でも望郷の念を抱くことはできる。</p>
---------------------------	--

経営者会議の最終判断

<p>事業の方向性</p>	<p>さらに重点化する。</p>
<p>意見、課題</p>	<p>郵便局と連携をしながら、納税額の大幅な増額を図り、返礼品の多様化に取り組むこと。</p>